



香川県立中央病院  
Kagawa Prefectural Central Hospital

れんけい

題字: 松尾信彦書

## 院長就任ご挨拶

塩田 邦彦

平成25年4月1日より院長を拝命いたしました。松本祐蔵前院長の後を受け、香川県立中央病院の基本理念である「香川県の中核病院として安全・安心な医療を提供し、県民並びに地域医療機関から信頼される病院」を目指し、患者さんの立場に立った医療に努力してまいります。

さて、医療の高度化、充実化を図るため、整備を進めております新病院ですが、平成25年11月に竣工、平成26年3月開院の予定です。新病院では、地域のニーズに沿って標準的な医療を安全確実に提供するとともに、四国初となる血管撮影装置を備えたハイブリッド手術室や、県内初となる定位放射線治療専用機「ノバルスTx」の設置など、当院でなければできない高度先進医療を推進していこうと考えています。今後は地域の医療機関との連携を進め、県民から信頼される病院となるよう、職員一同努力をしてまいります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

新病院への移転の際は、一時的に診療の縮小や休診など、ご迷惑をおかけすることもあろうかと存じますが、できるだけ早く通常診療に復帰するよう努力いたしますので、ご理解のほどよろしくをお願いいたします。



## 副院長就任ご挨拶

太田 吉夫

この度、4月1日付で岡山大学病院より中央病院に赴任してまいりました。副院長を拝命し、大変光栄に思いますと同時に、職責の重さに身の引き締まる思いです。

私は、昭和51年に岡山大学を卒業し、ただちに麻酔科に入局し20年以上を麻酔・集中治療分野で臨床、教育、研究に従事してきました。その後、岡山大学病院に医療情報部が新設されることになり1998年に初代の教授に就任し、この3月まで病院の情報システムのお世話をさせていただいていました。その傍ら、2001年には医療安全管理部長を拝命し、岡山大学病院での医療安全管理体制の立上げ・充実に努めてまいりました。

医師としてはかなり変わった経歴だと思いますが、麻酔科時代を含め、あまり表に出ない裏方として病院の中央で働いてきたこととなります。すでに臨床を離れて15年が経過し、現場の医師としては役に立たないと思いますが、塩田病院長のご指導の下で病院の管理・運営に微力ながらお役に立てればと思っております。

経歴のほとんどを大学病院で過ごし、香川県立中央病院での勤務は初めてであり、右も左も分からぬ新参者ではありますが、よろしくご指導、ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。



## 新中央病院ニュース（新中央病院の整備状況について）

新中央病院の建築工事は、総合工程から大きな遅れもなく順調に進んでいます。5月には最後となる鉄骨(10階、11階)が立ち上がり、建物全体の姿が見えるようになりました。内装工事についても1階から順次進めており、間仕切り壁や窓ガラスが設置されることで、建物内のイメージがわきやすくなりました。病院の建築工事は、11月末の竣工を目指しており、その後、新病院の開院準備を進めていきます。引き続き、皆さまのご支援・ご協力をお願いいたします。



工事現場状況(H25.5.13時点)

## 退職にあたって

## 前院長 松本 祐蔵

このたび、3月31日を持ちまして香川県立中央病院を退職することになりました。昭和62年7月から25年9ヶ月という長期にわたり皆様には大変お世話になり誠にありがとうございました。

脳神経外科部長として赴任しました当時、県内には脳神経外科がまだ少なく、多くの患者さんが県内各地から来院されました。幸いにも当院では救命救急センターがあり、脳卒中や頭部外傷などの重症の脳神経疾患の救急診療を24時間対応できる体制が整備されており、緊急手術、高度な治療を行うことができました。この間、地域の先生からは脳腫瘍をはじめ種々の疾患を持たれた多くの患者さんをご紹介いただき、手術を担当させていただきました。疾患の性質上、必ずしも満足のいく治療結果にならなかったことも多くありましたが、少しでも良くなる可能性があればと患者さん、ご家族と頑張ってまいりました。医療を通して多くの方々と交流をさせていただいたことを大変ありがたく感謝しております。

平成18年10月からは院長を拝命して中央病院のかじ取りをさせていただきました。病院の基本理念に沿って「患者さんの立場に立った医療」を目指し、急性期病院として高度先進医療とともに標準的治療を安全確実に提供することを目標にまいりました。この6年の間には、県立病院の運営形態が公営企業法の全部適用となり、電子カルテ導入、DPC参加、病院機能評価受審などの取り組みが行われました。平成20年には創立60周年を記念しての病院祭を開催して、平成24年までに第3回を行うことができました。また、医療セミナーや公開健康講座、出前講座、病院懇話会の開催に際しましては多くの方々のご参加、ご協力をいただき、地域医療機関や地域住民の方から貴重な提言を賜り、有難うございました。地域医療支援病院として、更なる地域医療への貢献が求められているところでございます。

平成26年3月には朝日町に念願の新病院が開院する予定で、現在工事が急ピッチで進み、建物の全体像も見えてまいりました。新病院では最新の医療機器が設置されるだけでなく、医療スタッフの充実と緩和ケアも含めたがん診療や心疾患、脳卒中、重症外傷などの高度な急性期医療の専門施設としての機能が整えられ、香川県医療の最後の砦として皆様の期待に応えられる病院になることと思います。現在、医療を取り巻く環境は少子高齢化社会に向けて大きく変わろうとしております。

最後に、これまでの皆様のご厚情に厚く御礼申し上げますとともに、これからも香川県立中央病院の運営にご協力、ご支援をいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。



## 職場紹介

## 泌尿器科

泌尿器科診療科長 武田 克治  
(中央病院診療部長)

当院泌尿器科は武田主任部長、眞鍋部長、藤田医長、黒瀬医長の4人体制で診療に当たっています。6月には後期研修医として田中医師が加わり、5人とマンパワーがさらに充実する予定です。外来診療はすべて受け入れることをモットーに診療時間外であっても院外、院内紹介はもとより、飛び入りの患者さんも断らずに診察、治療を行っています。最近、尿路結石に併発した尿路感染から敗血症を発症する緊急患者さんを多く経験しましたが、全例、直ちに経尿道的尿管ステント留置術を行い、重篤化を防ぐことができました。入院患者さんの多くは悪性腫瘍患者さんであり、時間を十分かけて、インフォームドコンセントを行っています。手術治療は



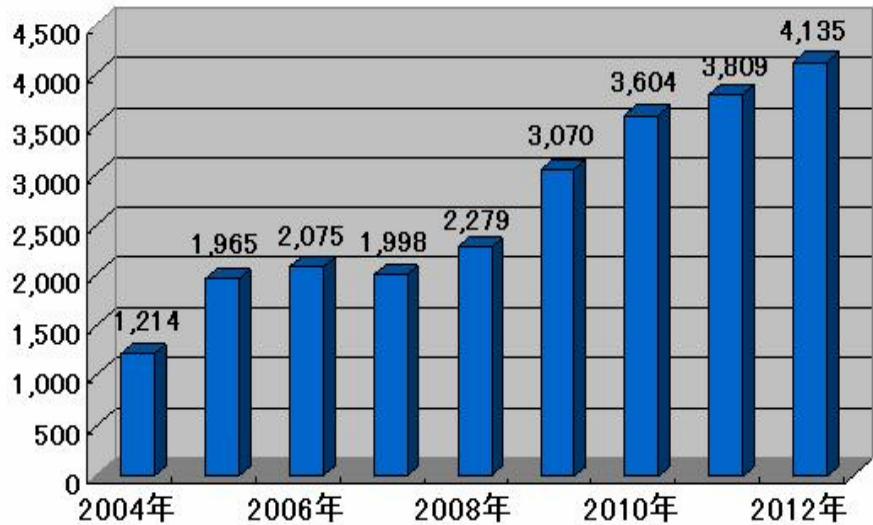
低侵襲手術を積極的に取り入れています。腹腔鏡技術認定医が3人在籍し、腹腔鏡手術は数のみではなく、質の改善、向上に取り組んでいます。具体的には、腎癌手術の多くは腹腔鏡下腎部分切除術に移行し、また、前立腺癌に対する腹腔鏡下手術も2012年5月に施設認定を取得し、通常の保険診療で行っています。レーザー装置も新病院移転前に更新され、より安全に前立腺肥大症治療が可能なHoLEP(ホルミウムレーザー前立腺核出術)も開始予定です。今後も質の高い泌尿器科医療を皆様に提供するよう頑張っ参りますので、よろしくお願い致します。



## データで見る中央病院「通院治療センター延べ患者件数」通院治療センター

薬剤の進歩により、がん化学療法(抗がん剤を使用した治療)の果たす役割は近年ますます大きくなっています。また副作用対策の改善により治療環境も入院から外来へシフトしています。当院では外来通院化学療法は各診療科の外来で行っていましたが、外来化学療法の質と量の向上を目指して2004年に5床のベッドを有する通院治療センターを設置しました。ベッド数不足が問題となり2009年には9床に増やしています。

**延べ患者件数の推移 (件)**



外来化学療法を受けたのべ患者件数は2004年が1,214であったのに対して2012年では4,135と増加しています。また新患者数も2004年が116であったものが2012年では248となっています。

当センターの基本理念は「快適さと安全性の両立」です。快適性の確保のために、治療専用ベッド等の設置のほか心理的サポートを行っており、通院治療センタースタッフ以外に心理療法士の協力も依頼しています。安全性を確保するためには治療を受ける方の理解が必須で、治療時間を利用して看護師・栄養士・薬剤師による指導を行っております。がん化学療法看護認定看護師を含むスタッフの増員も行い、更に2011年より臨床腫瘍部を設置し、当センターの円滑な運営に努力しています。しかしまだ、治療のニーズに十分に対応できている状況ではありません。新病院では規模と内容を充実して、香川県のがん化学療法をサポートするセンターとして飛躍する予定です。

通院治療センター長 川上 公宏

## 医療セミナーを開催しました。

平成25年4月18日(木)19:00から、当院10階会議室において、「婦人科がんの診断と治療」～現在のEBMに基づいて～と題して医療セミナーを開催しました。講師は産婦人科の本郷淳司部長でした。参加者は医師等56名で、院外からも31名の先生方にご出席いただきました。

子宮頸がん、子宮体がん、子宮内膜がんなど、婦人科がんの種類別に治療法などを丁寧に説明する、分かりやすい講義となりました。また円錐切除術のデメリットや、HPV予防ワクチンの早期接種の重要性等、興味ある内容に、参加者の皆さんから多くの質問が出され、活気のあるセミナーとなりました。

今後も当院における医療を代表し、興味ある様々なテーマを取り上げて、皆様のお役に立つ医療セミナーを積極的に開催していく予定です。是非ご参加下さい。



## 歴史の勉強は楽し♪(その5) 消化器・一般外科 鈴鹿伊智雄

第50号で、平家の追討に功績のあった源義経が生き残ることは困難だったと述べました。では義経が殺されずにすむ方法はなかったのでしょうか？ その答えは司馬遷(しばせん)の「史記」の中にあります。「項羽(こうう)と劉邦(りゅうほう)」で有名な、漢帝国を樹立した劉邦とその功臣たちのその後の物語です。

戦下手な劉邦の陣営で、一人だけ連戦連勝の天才武将がいました。背水の陣(烏合の衆の兵達を率いてわざと川を背に布陣し、懸命に戦わなければ必ず死ぬ状況にして敵を撃破した井陘口(せいけいこう)の戦い)で名高い韓信(かんしん)です。「ヒヨドリやムクドリの群れにワシは混じりません。ワシは必ず中傷され殺されます。」と部下から独立を勧められても、韓信は劉邦を裏切りませんでした。そのくせ自分が齊(せい)の国を平定した時、悪戦苦闘中の劉邦に齊王の地位を要求したり、項羽との最後の決戦の時も恩賞を釣り上げるためになかなか参戦しなかったり、無神経で欲深いところがありました。天下平定後、案の定韓信は劉邦一族から恐れられ、計略にかけられました。やむなく謀反を起こしましたが、時すでに遅く、捕らわれて処刑されました。同様に彭越(ほうえつ)や鯨布(けいふ)らの功臣が次々と誅殺(罪を着せられて殺されること)されました。「狡兔(こうと)死して走狗(そうこう)煮るる」(ずる賢いウサギを仕留めたら、猟犬も料理される)という格言通り、敵が滅べば味方の武将は用済みになり、有能な武将ほど謀反を恐れられて殺されるわけです。関ヶ原の功労者、福島正則の末路も哀れで、老中本多正純の計略にかかり領地を没収され、失意のうちに亡くなりました。

劉邦の部下に内政担当の蕭何(しょうか)がいました。蕭何は有能かつ清廉潔白な政治家で、劉邦軍の後方補給を見事に行いましたが、戦場においても蕭何の裏切りが心配な劉邦は、たびたび蕭何に使者を送り、労をねぎらいました。これを劉邦から疑われているためと理解した蕭何は自分の一族の男子全員を戦場に送りました。劉邦は大変喜びました。蕭何は天下平定後の論功行賞でも第一位で、地位も丞相(じょうしょう)から相国(しょうこく)に格上げされ、莫大な領地の加増と護衛兵までつけてもらえました。しかし護衛兵をつけられたのは謀反を疑われている証拠だと友人から忠告され、蕭何は加増を辞退し全財産を軍費として提供しました。劉邦はとても上機嫌でした。その後蕭何は、彼の善政のために国民の人気も絶大でしたが、彭越と鯨布の討伐で転戦中の劉邦は蕭何がクーデターを起こすことを心配し、たびたび使者を送り蕭何の近況を探りました。そこで蕭何はわざと汚職を行い、自らの評判を失墜させました。それを知った劉邦は大いに喜び安心しました。劉邦の没後2年で、蕭何は天寿を全うしました。

トップよりNo2の実力が勝る場合、No2として生き残るためには蕭何のような涙ぐましい努力が必要なのです。義経も欲を出さず、頼朝に対し蕭何ぐらいの気遣いをしていたら、殺されなかったでしょうね。

### 医療セミナーの開催予定

地域医療機関の先生方を対象とした医療セミナーを開催します。

- 日時:平成25年8月8日(木)19時00分より
  - 場所:当院10階会議室
  - テーマ:  
**食道がん並びに食道胃接合部がんについて**
- 講師 当院 消化器・一般外科 大橋龍一郎  
多数の先生方のご参加をお待ちしています。

### 公開健康講座の開催予定

一般の方を対象とした公開健康講座を開催します。

- 日時:平成25年9月28日(土)13時30分より
  - 場所:当院10階会議室
  - テーマ:**骨粗しょう症について**  
**一骨を強くして健康寿命を延ばしましょう**
- 講師 当院 整形外科 長野博志  
多数の方々のご参加をお待ちしています。

## 認定看護師のご紹介 集中ケア認定看護師 藤原 邦子

「集中ケア認定看護師」という名称を聞いて、どんな印象を受けられるでしょうか。

「集中ケア」という言葉から、「集中治療室で治療を受けている人を看護している看護師」ととらえている人が多いのではないかと思います。

しかし、急性期病院である当院では、一般病棟であっても集中ケアが必要な患者さんが増えてきています。そのため、院内の看護師を対象にフィジカルアセスメントを中心とした教育を行い、重症な患者さんを看護するために必要な知識や技術の指導を行っています。

また、一般病棟で人工呼吸器を使用している患者さんに対し、医師、臨床工学技士、理学療法士とともに、週に1回のラウンドを行い機器の管理状況の確認や看護ケアについてのアドバイスを行っています。現在、集中ケア認定看護師は当院に2名いますので、何か困った事があればいつでも相談して頂きたいと思っています。